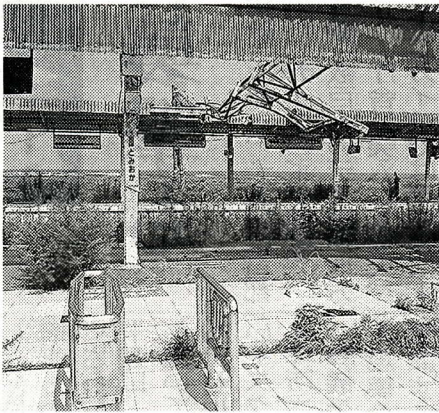


東日本大震災発生から時がたつにつれ、「復興の対象になっていない置き去りにされている地域の人々の悲しさは増大している」。また、「被災者はもとより、彼らを懸命にケアしてきた支援者たちの多くが心的外傷後ストレス障害(PTSD)の状態に大なり小なり陥り苦しんでいる」といわれています。

他方、報道が少なくなるにつれ、被災地以外の人々は、被災地から距離が離れるほど、震災はひとつごとになっていきます。これではいけない、被災地で生活している人たちや、被災者と寄り添い

東北復興日記

53



ながら活動を続けているので、情報発信のたがたちました。人たちは、「復興の今め、JKSK結プロジェクトを、一人でも多くの人々エクトと東京新聞との連に伝えていかねばならぬ携で、この「東北復興日記」という強い思いを持記」の連載は始まりましむ場所の違い、支援の差、新しい人間関係のあ々々ご一緒に！」運動の大切さをひしひしと感じています。

(写真は、東京電力福島第一原発二十キ圏内の福島県富岡町の富岡駅で四日に撮影)

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

NPO法人
「女子教育奨励会」
理事長 木全ミツさん

連載2年目 気持ち新たに

して「決して関心がないわけではない」と応援の気持ちを持ってくださる全国の人々に、今何を

ながら活動を続けているので、情報発信のたがたちました。人たちは、「復興の今め、JKSK結プロジェクトを、一人でも多くの人々エクトと東京新聞との連に伝えていかねばならぬ携で、この「東北復興日記」という強い思いを持記」の連載は始まりましむ場所の違い、支援の差、新しい人間関係のあ々々ご一緒に！」運動の大切さをひしひしと感じています。